

The World 世界の旅

このコーナーはエムトラをご利用のお客さまや、エムトラスタッフ（や、そのベット）から寄せられた世界の話を皆様に紹介するコーナーです。貴重な体験をお持ちの方はどうぞエムトラへ。



エムトラベルでは「地球の迷い方」という言葉がはやっているけれど、今回のヨーロッパ旅行へは「迷い方」ではなく『ロンドン歩けば…』（林丈二）という旅日記をお供に出かけた。

この本の作者は昔、夏目漱石の作品に登場した「猫の絵葉書」を探すべくロンドンを歩いていた。
『ロンドン歩けば…』はその数年後にロンドンを再訪したときの日記だ。
日記の内容は、バッキンガム宮殿やロンドン塔はそこそこに、マンホールのふた、橋の意匠、鉄格子の種類、靴の泥落とし、トーストラック…などなど、上見て下見ての「落穂ひろい的」街歩きの成果。
毎晩宿での本を読んでいるうちに、ただの本ではなく一緒に旅行をしている知り合いのようになってきた。

日が経つにつれて自分にも『ロンドン歩けば…』風の目線が乗り移り、廃墟になった地下鉄駅、古い家にある謎の収納スペース、人々の電車の待ち方、電灯の模様などなど「落穂ひろい的」街歩きに熱中した。
中には何のための道具なのわからない「未確認機能物体」も多々あるけれどさるなる街歩きでその役割に気づいたり気づかなかったり。日本にも意外と似たようなものがあったり、なつたり…。

また林氏は多くの骨董品店や絵葉書の店を渡り歩いており、私もその中いくつかの店を訪ねることにした。
この本が書かれたのは八年ほど前。見当たらない店も多々あったが「地球の○き方」に載っている店が見当たらなかったときは少し違う気持ちが湧いてくる。

一方で今でも営業している店もいくつかあって、本の中に登場した店主と会ったときは久々の再会のようだった（もちろん相手は何も知らない）。

実は、今回の旅行では『ボートの三人男』をガイドブックにオックスフォード～ロンドンをテムズ川に沿ってめぐってみようとも考えていた。が、他の地域に行くことを考えると日数が足りず、キングストンなど少しだけロンドン郊外に出たところで断念。

次回は三人男とともにテムズ川めぐりをしてみたいと思っている。



スパイスの虜

これを効かせたら、味も人もぐっと深まります。
毎号1種類ずつ取り上げてご紹介。

第6回【クミン】

どこかエキゾチックな語感の香辛料、クミン。原産国はエジプト、北アフリカや中東では紀元前から使われていた最も古いスパイスの一つです。
日本ではカレーのスパイスとして馴染み深いですが、実はカレー以外にも、世界各地で様々な料理に使わているんですよ。
例えばクミンの香りを生かした代表的な料理や食品には、北アフリカのクースクース、北欧の



クミン入りチーズ、ドイツのキュンメル酒、メキシコ料理のチリー・コーン・カーンなどあり、アメリカではケーキやパン類等、甘めの味わいに風味を加える為に用いられているようです。

クミンに魅了されてきた人は数知れず…。千夜一夜物語の第27夜コック長の話の中に、クミンに関するちょっと恐ろしい逸話が記載されています。
なんでもクミンの強い香りで調理したシチューを出された若者が、その美味しさのあまりお腹いっぱい食べた後、つい手を洗うのを忘れた為に手足の親指を切り落とされてしまったとか…。（イスラム教では、食前だけでなく、食後にも手を洗うマナーがあるそうです）
また、中世のヨーロッパでは、男女間の貞節を象徴するものとしてクミンは捉えられていました。恋人の心変わりを防ぐものと信じられ、恋人同志が結婚式をあげる時、ポケットの中にクミンを忍ばせて臨む風習があったそう！

皆とすっかり打ち解け、語り部になるモモなのでした。

<つづく>

名犬モモ一匹旅「石垣島」編

※この物語はフィクションです。

拝啓、日本の皆様。

モモは今、南の楽園、石垣島に来ています。

石垣島といえば、大小多数の離島を有する八重山諸島への玄関口。
昨日は石垣から飛び出し、ずっと気になっていた「星のや 竹富島」に宿泊。
大きなプールで思う存分遊泳した後は、プライベートスパで気分はセレブ犬。
昨晩はパッションフルーツをたらふく食べたので、帰ったらダイエット決定です…。

今日は知る人ぞ知る、石垣猫たちの大テリトリーに初潜入。

貴様あるボス猫たちに初めは気後れ気味のモモでしたが、前回の旅先ドバイから持ち帰った金のネックレスに皆興味深々！

「ドバイには金の自動販売機もあるのよ」

皆とすっかり打ち解け、語り部になるモモなのでした。

<つづく>



この風習には、神秘的な芳香を持つクミンを上手に使って料理のできるような花嫁は夫を確実に身近に引き止め、浮氣をさせない腕前を持っているということを意味する一方、花婿側は妻の貞節を信じ自らも浮氣をせず、十分な量のクミンと料理の材料を家に持ち帰るくらい妻に忠実でなければならないという意味が含まれていたそうです…。

古今東西様々な逸話が残っているのは、いつの時代もそれだけクミンが人々にとって魅惑的だったからなのでしょう。

さて、先人を習い恋人のポケットに忍ばせるのもまた一興…ですが、ストレス社会に生きる私たちは食欲増進と消化の促進にも効くクミン入りカレーで、夏バテを吹き飛ばしゃいましょう!!

M-Tra★ Produce

私が行きたい海外旅行 インド編

今回エムトラが提案するインド旅は定番ルートをちょっと外して、西インド。
インド最大の都市ムンバイと、見た目がユニークな神様ガネーシャの街プーネを巡ります。
プーネは金沢の某国立大学とも交流のある都市ですよ。

day1 成田空港発、首都デリーへ。 + 機中泊

day2 深夜デリー着。国内線でプーネへ。
ホテルにて休憩後、市内観光。
西インドの工芸品が集められているラージャーケルカル博物館やマハラジャの宮殿アガルーン宮殿、ガネーシャが祀られるカスバガナバティ寺院を訪れます。
寺院以外でも市内では色んなガネーシャの姿を見つけることができるはず。
ガネーシャは学問の神様。頭の良さにあやかりたい…。そして財産や富の神様もあるのです。
商店繁盛や金運上昇もお祈りしておきましょう。

心地よい風に一句浮かびそうです。 + プーネ泊

day3 翌朝はちょっと早起きして庭園を散策。
岡山の後楽園をモデルに作られた日本庭園「Okayama Friendship Garden」があるんです。
ここでは句会が開かれるほどプーネには「Haiku」愛好家も多いとか。

心地よい風に一句浮かびそうです。 + プーネ泊

day4 この日は列車でムンバイへ。(所要約4時間)
今夜のホテルはタージマハルパレス＆タワー、通称「タージマハルホテル」。インドを代表する歴史ある高級ホテル。世界のVIP気分を味わうなら旧館に泊まりたい。 + ムンバイ泊

day5 この日は船で約1時間、世界遺産エレファンタ島へ。
連絡船はインド門のすぐ裏から出ています。海から見るタージマハルホテル＆インド門がまたオツ。
島にはヒンドゥー教の石窟寺院群があり、そこに残されている神々の彫刻が素晴らしい。
午後はドクター・ハウ・ダージ・ラッド博物館へ。
ムンバイの歴史をお勉強。エレファンタ島の名の由來となった象の彫刻はブリタニアとは言え興味深い。
+ ムンバイ泊

day6 ムンバイはボリウッド映画の本場、せっかくなので映画館へ足を運びます。インド映画と言えば何と言つてもダンスシーン！地元の人達と一緒に盛り上がりましょう！

午後はホテル裏の商店街でショッピング。お土産店、アンティークショップ、絨毯屋さんなど色々なお店が軒を連ねます。
でも人も多いのでスリには気を付けて…。
夕刻、空港へ。夜、ムンバイ発。 + 機中泊

day7 朝、成田空港着

石窟寺院群にご興味のある方には、世界遺産アジャンタ＆エローラへのツアーも手配可能です。
1500年前の建造物、彫刻、壁画には感動すること間違いなし。圧倒されます！
また、寺院や遺跡は苦手という方にはムンバイ郊外にある「ボリウッド映画」のテーマパーク「Adlabs Imagica」(2013年OPEN)がお勧め。
インド版映画村って感じです。

インドで結婚式を見かけたら…参加しちゃいましょう！
基本的に誰でも入場できて、振舞いのお料理を好きなだけ食べられる！
日本の披露宴のようにおめかしする必要もありません。
Mr. 正木曰く「よくしてくれた！」と大歓迎を受けるはず…とのこと。
(ただし、食べ過ぎにはご注意を。)

day8 インドで結婚式を見かけたら…参加しちゃいましょう！
基本的に誰でも入場できて、振舞いのお料理を好きなだけ食べられる！
日本の披露宴のようにおめかしする必要もありません。
Mr. 正木曰く「よくしてくれた！」と大歓迎を受けるはず…とのこと。
(ただし、食べ過ぎにはご注意を。)

石垣島・八重山諸島で過ごす テヘゲ～な4日間 86,500円～

*以下に記載のホテルに
3名1室利用の場合、
大人1人あたり

滞在中はフリータイム！

1日目

朝、小松空港～羽田経由～15時頃石垣空港着。
ご自身にてホテルへ。着後、フリータイム。

例えはこんな過ごし方
地元の居酒屋で沖縄料理を楽しんだ後は、星座ツアーに参加されたりは？
本島では見られない、降るようない星空は一生の思い出になります。

<ベッセルホテル石垣島 泊>

2日目

フリータイム

例えはこんな過ごし方
フェリーに乗って、いざ八重山諸島へ！

まずは石垣からもっとも近い離島、竹富島に上陸。

水牛車に揺られて島内を巡り、レンタサイクルで沖縄の風を感じましょう。

サーキュラーダギーヤーソーキキイに舌鼓を打ち、琉球赤瓦の屋根が続く白砂の道を歩きます。

(サークルの性別の見分け方は、おほかやおじいに聞いてみると?)

真っ青に透き通ったコンドイビーチでのショーケリングもお勧め。

どうも『ちゅらさん』の舞台になった小浜島では、

両脇にサトウキビ畑の広がる一本道「シュガーロード」を見ることが出来ます。

たっぷり遊んだあとでは石垣に戻り、夕飯はジューシーおにぎりを食しましょう！

※ジューシー豚のだし汁を使った沖縄の炊き込みご飯

<ベッセルホテル石垣島 泊>

2014年4月～2014年10月まで

往路：ANA便、羽田乗り換え／復路：ANA便、羽田乗り換え

最少催行：1名（一部コースは2名より）

出発日：7日前までの申し込み

旅行代金に含まれるもの：既定の北陸発着往復交通費・宿泊費・朝食代金

（フリータイム時の移動費、入場料などは含まれません）（フェリーの時間は変更する可能性があります）

出発日、着発地、ホテルによって料金は異なります。詳細はお問い合わせください。

企画・実施：株式会社日本旅行

3日目

フリータイム

例えはこんな過ごし方

今日はちょっと足を伸ばして、有人最南端の波照間島とマンゴロープの森、西表島へ。

波照間のニシ浜は八重山随一の水の透明度!!
日々の喧騒から離れた、のんびりリビーチで過ごす贊沢を味わいましょう。

お酒好きの友人には島内で醸造される幻の泡盛、「泡盛」をお土産に。

午後は西表島に移動。

カヌーでトレッキング等アクティビティに過ごすも良し、「星砂の浜」で星の形をした砂を摸索するのもお勧め。

最後の夜はオリオンビールで乾杯！肴はあぐー豚の生ハムで決まります。

<ベッセルホテル石垣島 泊>

4日目

フリータイム

最終日はのんびり島内で過ごすも良し、

早起きして黒島や鳴間島に足を伸ばすも良し。

思い思いの時間を過ごし下さい。

ご自身にて空港へ。

夕方、石垣空港発～羽田経由～夜、小松空港着。

